

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	児童発達サポートガリレオキッズ	公表日 令和7年2月28日
------	-----------------	------------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・運動スペースと作業スペースをしっかりと分けている。	・個別訓練室を設けて、保育、教育、運動の環境を細かく設定していきたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		概ね1日の利用定員を定めており、特に水泳療育では事故防止の観点からも人員を多く配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・各空間に絵カードや色分けによる視覚的支援 ・現段階での利用児と事業所の設備の関係で特に問題や支障はないと考える。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・活動終了時に空間と使用物品のアルコール消毒と清掃を行っている。活動内容に応じて事業所内活動だけでなく、週3日設定するプール活動、または体育館活動、公園での活動を取り入れている。	広いベランダがあるので、その空間を利用できるように整備したい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の部屋はないが、ホワイトボードなどで仕切りを作り必要に応じて工夫をしている。	併設施設の場所を借りて、個別のリハビリ活動ができるとうい。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		朝礼などで業務での気になる点を共有し合い、改善点を確認しながら日々取り組むようにしている。	パート職員が参画するしくみが必要。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向けのアンケート調査の実施をしている	保護者の意向をもう少しはっきりスタッフが共有できればより良くなると思います。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員間で、意見交換や着目点の共有ができていない必要に応じて上司や所属長へ相談出来る環境がある。話し合いを重ねています。	OA化を進めていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		関連法人内で評価を行っているが、外部評価を行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に研修の案内があり、学べる環境が整っている。地域医師会や社会福祉協議会主催の研修会の参加を適宜行っている。	職員一人一人が自主研修の意識を持てるように工夫が必要。法人内での研修も活発に行いたい。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		保護者、相談支援事業所(相談員)、支援事業所(児発管)による連携を行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		利用開始前の体験利用、児発管による保護者への課題ニーズのヒアリングとヒアリング内容を現場スタッフと情報共有、また目標見直し時期に定期的な評価につなげている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員同士で、各専門職の多角的な視点で課題やニーズを捉え管理者、現場スタッフが情報共有している。保護者、相談員の方からの情報をもとに事業所での子供の様子を踏まえて、職員間で一人一人の成長を促すような関わり方など情報共有することができている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画を意識した支援を行っている。	子どもの特性に応じた同一のアセスメントツールを採用したい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		遠城寺式 乳幼児分析的発達検査法を使用している。また、特性に応じたアセスメントツールを使用している。	アセスメントについて、深く分析し、皆が意見を出し合えるよう、同じ空間での会議が必要。AIを取り入れ、ネットでの会議を実現したい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		計画書に記載した内容を尊重して、支援を行っている。また、現場での支援の有用性を話し合っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		多職種の視点でプログラムを立てている 反省点や工夫が必要な点を適宜プログラムへ反映している	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動の結果を評価して、次回行う際に子供の課題も踏まえ、活動の進め方の工夫をしようとしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		5領域に従って集団や机上の活動へ組み入れている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼等で、支援内容や伝達事項、課題等を共有できている。また、実際に活動時にも声を掛け合っ	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		記録を書く時に今日の様子や最近の様子についてみんなで話をする事が多い。毎回、評価振り返りを行なっている。	なかなか話す暇はないのですができるだけ伝えようとはおもっています
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		子供達の様子を職員間で共有し、記録に残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		相談支援事業所との密な関係に努めている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管と現場スタッフ等複数名で参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		併設クリニックを活用して、かかりつけ医との適切な情報共有が出来ている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		各々の事業所や幼稚園などの担当者との連携は大変重要であると考えているが、支援や保育の考え方に差があると感じている。情報の共有が難しいと思われるケースがあり、公的な働きかけも必要に感じている。	良好な関係を築くための会議などが必要であるが、様々な問題があり、今後の課題と思われる。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		事業所との連携を行う日を設けていただける小学校があり、大変ありがたく思っている。就学後も少しでも子どもたちが、その子らしく居られる環境の手助けになりたいです。	事業所、幼稚園の評価を確実に小学校側に伝えていか、確実な情報共有の機会が必要ではと思われる。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○	運動に関しては、整形外科医師のアドバイスや評価を詳細に教示していただいている。	当事業所と関連するセンターがどのような活動をしているのか、適切な情報が得られない。こちらからセンターへ情報共有を働きかける必要があるのか。支援が難しい児童に関して、コンサルタント出来る専門家や医師との連携を密に行っていく機会を今後多く持ちたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	地域の音楽祭に出場できたことは、私たちの励みとなりました。	交流を持つのは現状難しい。今後の課題と思われる。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		活動の様子の写真や動画を送ることをしている。送迎時でのヒアリング、LINEを使用しての情報交換、利用後の連絡帳での情報提供などしている	共働きの保護者が多く、働いている私たちも日中に情報を共有することの難しさを感じている。このようなところは、積極的にAI化を進めていきたい。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		専門的なペアレントトレーニング習得するため、一部の職員が研修を行った。	ペアレントトレーニングは、なかなかむづかしい専門的なトレーニングです。もっと多くの研修をつみ、トレーニングできる人材を育てようと思います。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用契約時に児発管より契約内容、同意書の説明を行っている		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		行っている。	自宅を訪問する機会を増やせればよいと思う。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		行っている。	自宅を訪問する機会を増やせばよいと思う。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		行っている。	自宅を訪問する機会を増やせばよいと思う。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	今年度親子での活動を計画して、他保護者との交流の場にもなっていた	意見交換が図れる機会を作れていければと思う。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談窓口を一本化し対応を体系化している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		LINEを活用し、各家庭に都度行事予定等のお知らせを行なっている。	LINEで個別の対応を行っている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	○	地域が開催する音楽祭へ参加している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		全職員がマニュアルの理解をし、何か起こった時の対応は周知している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		災害発生時の避難場所への移動など、子ども達と一緒に経路等の確認を行なっている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		医療施設を併設しているため、関連法人医師が、かかりつけ医と直接連携し、すべての情報を取得している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事をとることは、普段の支援中ではないがクッキング等行う際には、使用材料等の詳細を書面でお知らせして、保護者への確認と同意書の提出をお願いしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全に配慮した支援を常に心がけている。安全管理の考え方を全てのスタッフに定期的に研修し、周知徹底を心がける。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	避難経路を確認したり、公園に行く際は、スムーズな移動のため、時間を図るなどしている。	避難訓練は支援の中で行っているが、それを保護者に伝えることをしていない。参加できない子どもの保護者にも連絡していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットがあった場合に職員間で共有し、改善点を挙げ、記録に残している	ヒヤリハットの数が少ない。 ヒヤリハットの形式を簡素化し、たくさんの気づきにつなげられるように、フォームを見直す。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修に参加している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束を行うための事前に説明しなければならぬ子どもの利用がない。		